



各位

2019年7月3日

会社名株式会社 ディスコ
 代表者名代表取締役 関家一馬
 社 長
 (コード番号 6146 東証第一部)
 問合せ先 I R 室 長 小澤伸一郎
 (TEL 03-4590-1111 (代表))

2020年3月期 第1四半期 個別売上高および出荷額の速報値に関するお知らせ

個別売上高および出荷額の概数を速報値として、下記の通りお知らせいたします。

記

2020年3月期 (2019年度) 個別売上高 四半期推移

(金額の単位：百万円)

	第1四半期	第2四半期	上期	第3四半期	第4四半期	下期	通期
売上高	27,683	—	—	—	—	—	—

2020年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を早期適用しており、主に精密加工装置等の機械製品について、売上計上のタイミングを検収時へと変更しております。新会計基準に基づく当第1四半期の個別売上高は276億83百万円となり、直近の個別業績予想(売上高293億円)に対して94.5%の達成率となりました。

会計基準の変更により売上高の前年比較が困難になることから、前会計基準における売上高に相当する「出荷額」を下表の通り開示いたします。

2020年3月期 (2019年度) 個別出荷額 四半期推移

(金額の単位：百万円)

	第1四半期	第2四半期	上期	第3四半期	第4四半期	下期	通期
出荷額(A)	27,939	—	—	—	—	—	—
2019年3月期(2018年度) 出荷額(B)	34,591	34,474	69,066	28,929	26,495	55,424	124,490
対前年同期比増減率 YoY (A/B)	Δ 19.2%	—	—	—	—	—	—
対前四半期比増減率 QoQ	5.5%	—	/	—	—	/	/

当第1四半期の個別出荷額は279億39百万円(YoY:19.2%減、QoQ:5.5%増)となりました。

当期の精密加工装置は、半導体量産用途のブレードダイサが低調だったものの、一部の用途においてグラインダが高水準で推移した結果、前四半期と比べほぼ横ばいのお荷額となりました。

消耗品である精密加工ツールの出荷は、前四半期において顧客の設備稼働率に連動し低水準で推移していましたが、当四半期においては一部の地域・用途で持ち直しの動きが見られたことから前年同期並みの比較的高い水準となりました。

2020年3月期 第1四半期における決算業績の発表は7月25日に行う予定です。

速報開示とは:

速報開示とは、投資家の皆様に対し当社業績に関するリアルタイムでの情報提供を行うことを目的とし、四半期ごとに個別売上高・出荷額が判明した時点で、速報値として任意に開示をするものです。なお上記の速報値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成した監査終了前のものであり、実際の業績は監査法人の精緻な監査による指摘により速報値と異なる可能性があります。

以上